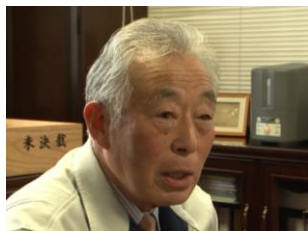


土地改良区の取組み

巨理土地改良区



三品理事長



震災直後の農地(山元町)

「まず、町と県に復旧についての対応をどうしたらいいのか相談しました。自分たちも含めてわからなかったものだから。」

「受益が約4700ヘクタールくらいあるんですけど、3400ヘクタールくらい被害があった部分がありました。浜手に行ったときはもう何もありません。自動車や家の破片やらで、船もかなり上がったんでね。あのときには、うちもこのまま継続できるのかって思いましたよ。」

■震災当時

宮城県の南部にある巨理町・山元町は河川がなく、農業用水の排水だけでなく、生活用水も全て農業用排水路に集め排水処理される特殊な地域です。巨理町と山元町を受益地にもつ巨理土地改良区は、管理する農業用施設の多くが津波により被災しました。

震災当時の様子を巨理土地改良区理事長の三品幸徳さんに伺いました。



齋藤さん



震災直後の吉田排水機場

「こちらの施設は被害を受けまして、現在は堤塘がなくなっています。陸地と海が繋がった状態で、ここに来ることもできない状況でした。まず県が仮設の道路をつくり、それから機場の応急復旧をしてなんとか対応できるようにになりました。」

現在、巨理・山元地区の農業用施設は国と県が復旧事業を進めており、平成26年度末には11箇所全ての排水機場の本復旧工事が完了する予定です。

職員の頑張りに三品理事長は

「自分のこともあったけど、事務所のため、職場のためにみんなが動いてくれて感謝してる。かなりの心労はあったと思うけど、表に出さないのでみんな頑張ってくれた。」と感謝しています。

■震災から3年

震災から3年が過ぎ、巨理土地改良区管内では復興交付金を活用した約2100ヘクタールの農地整備を行う計画を進めており、平成25年12月19日には「巨理地区」(約1300ヘクタール)の起工式が行われました。

「これからの土地改良区の役割について三品理事長は「あの当時を思うと、今みたくなれるかどうか(農地が復旧するのか)、全然考えられなかったんだよね。これからの農政にマッチした基盤整備、あるいは集積事業も含めて、その下準備はうちら方かなと思っています。」と力強く語っていました。



農山漁村復興基盤総合整備事業「巨理地区」起工式(H25.12)



吉田排水機場の復旧状況(H26.5)



山元町の農地復旧状況(H26.9)